

資料2-1

令和7年10月23日(木)開催

令和7年度第1回富山県がん対策推進協議会

拠点病院の相談支援の現状について

相談支援センターについて

がんに関する相談窓口として、県内10拠点病院及び県がん総合相談支援センター(サンシップとやま2階)に設置されている。

◆相談できる方

がん患者、その家族、地域の医療機関等

◆相談できる内容

がんの診断、治療や副作用、治療後の療養生活、お金や仕事、学校のこと
家族や医療者との関係、疑問や心配、不安などがんに関すること全般。

◆相談対応者

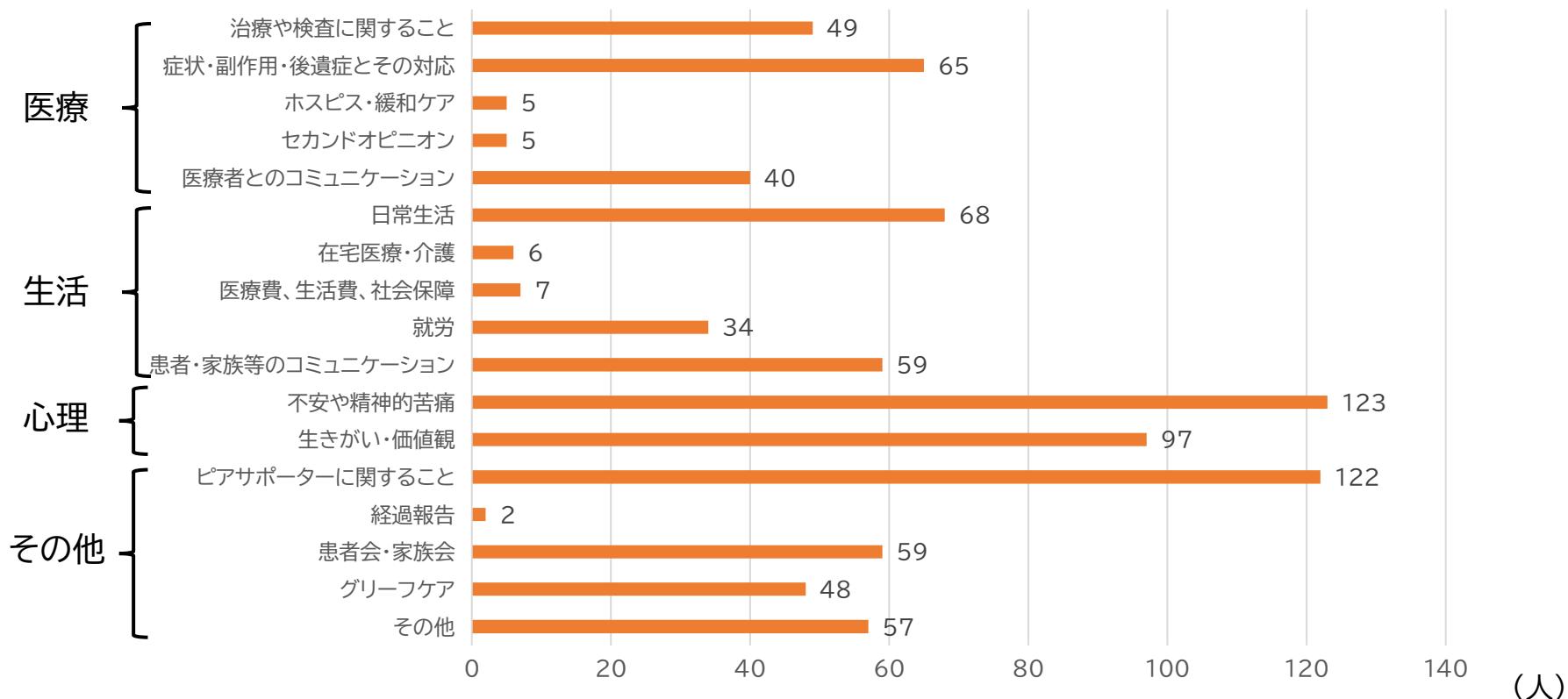
がん認定看護師等



県がん総合相談支援センター実績(R5)

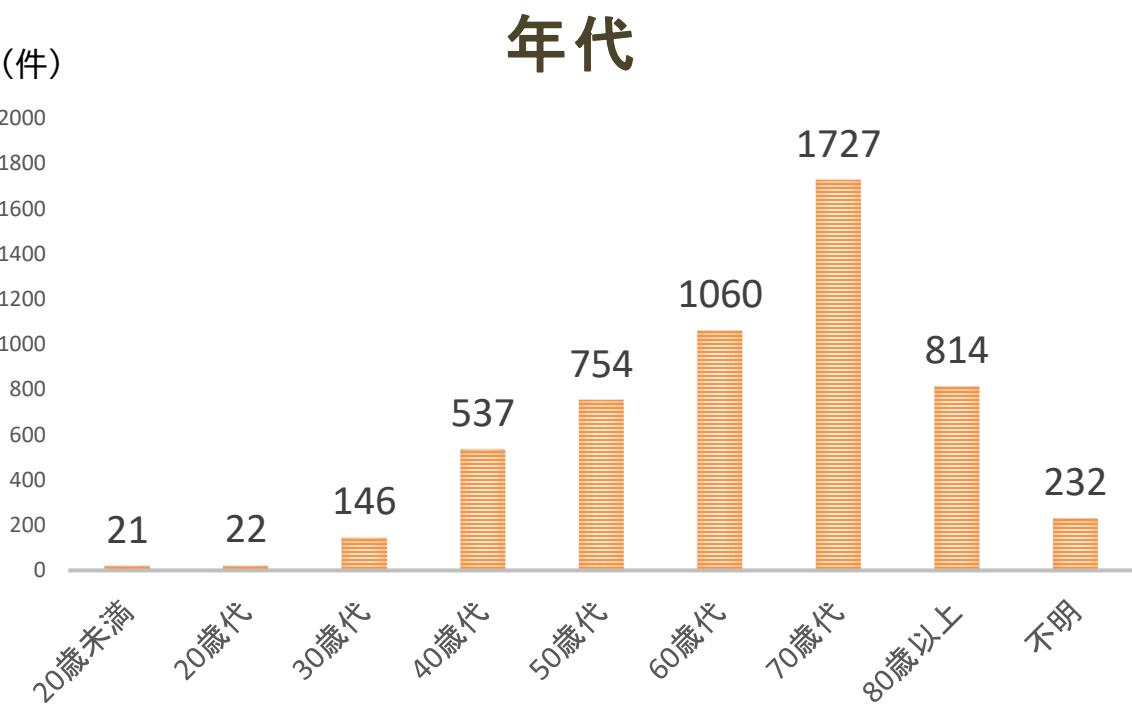
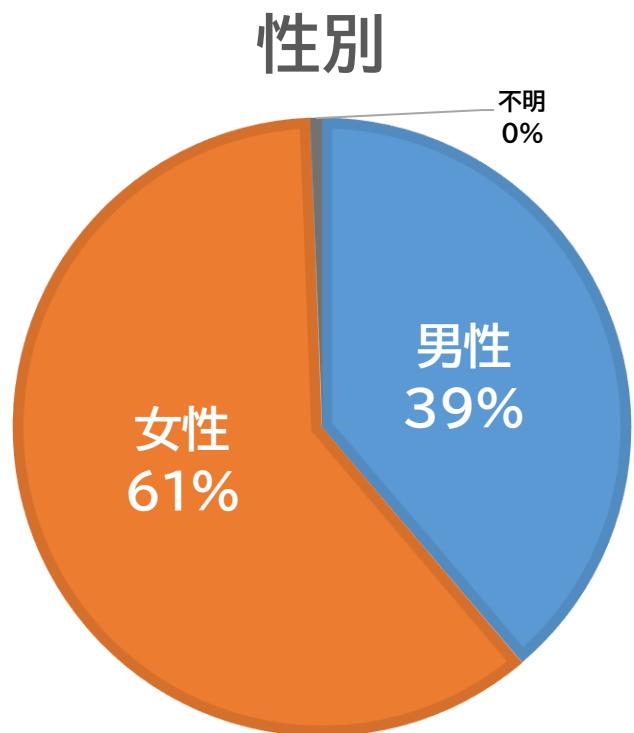
- ・ 県がん総合相談支援センターへのR5相談人数は846人であった。
- ・ 心理面での相談(不安や精神的苦痛、生きがい・価値観)に関する相談が多い。
- ・ センターで養成しているピアソポーターに関する相談も多くある。

相談内容の内訳(R5相談人数846人)



相談者属性(性別・年代) 10拠点病院R5年度実績

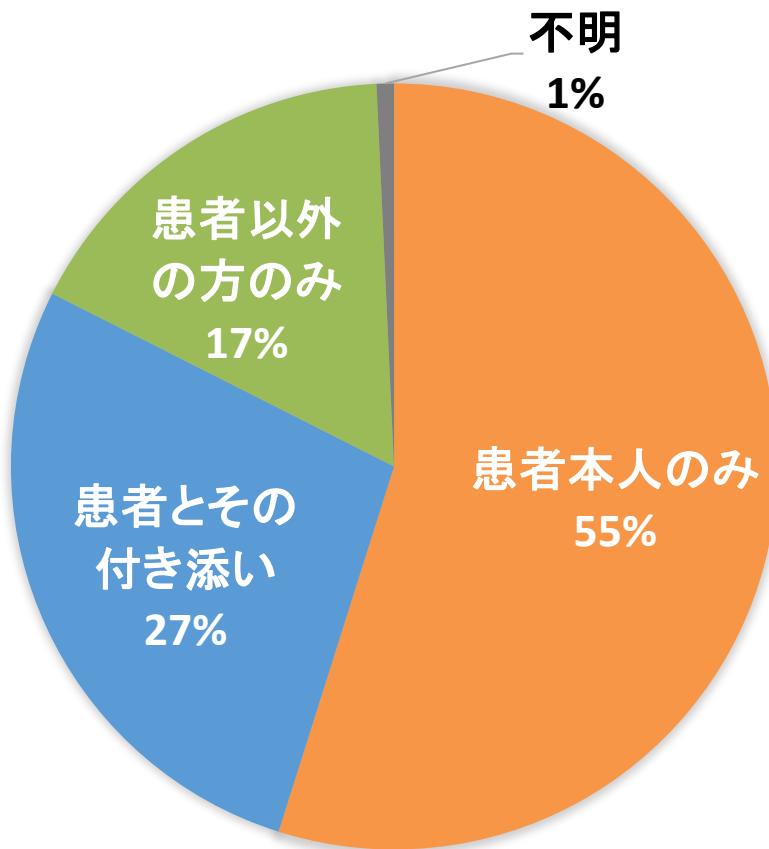
- 女性からの相談が6割を占めている。
- 40歳代から申請件数が増え始め、70歳代が最も多い。



相談者属性(付き添いの有無等)

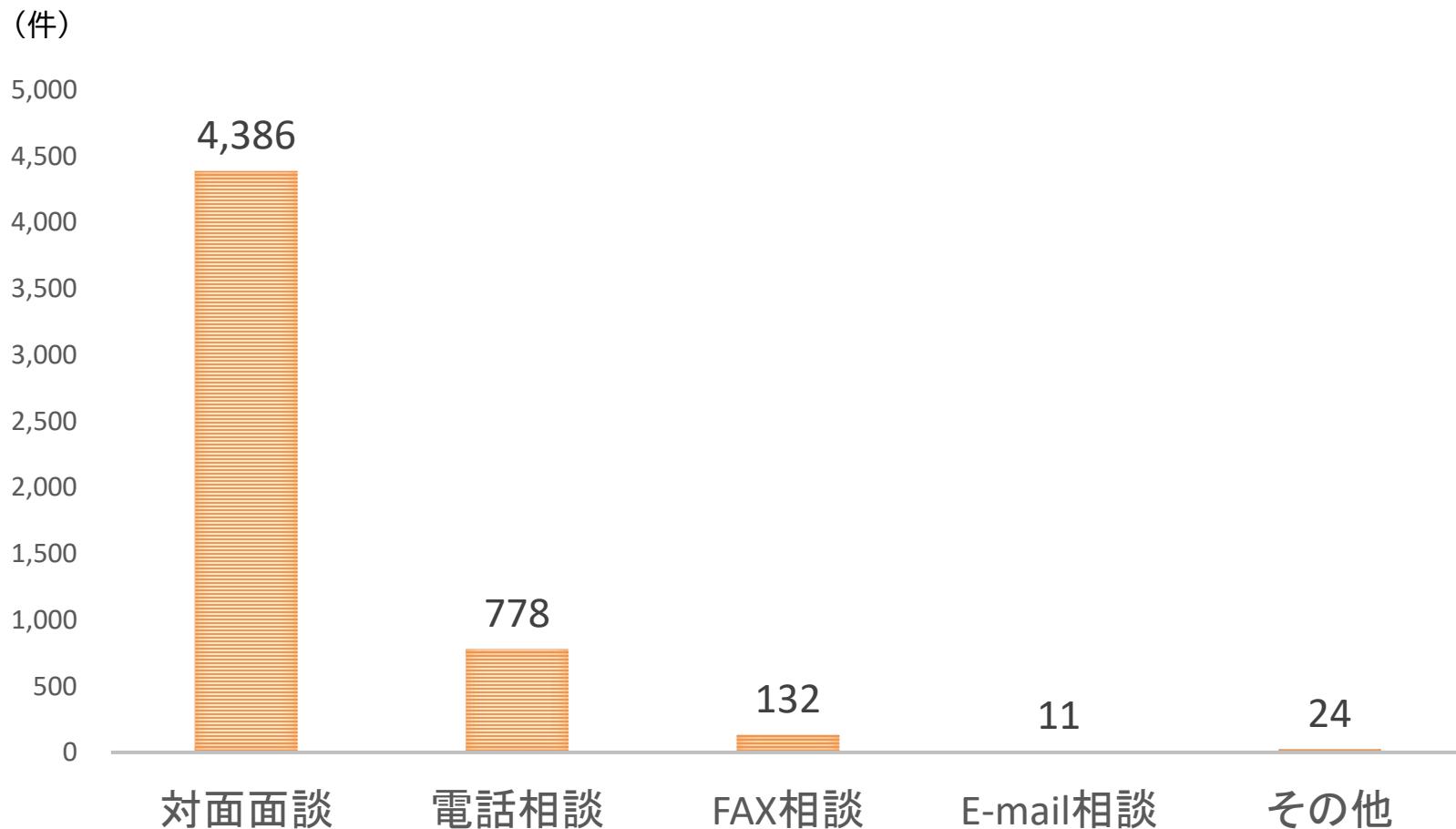
10拠点病院R5年度実績

- ・ 患者本人のみがおよそ半数を占める。
- ・ 付き添い者(家族等)同伴の相談や患者以外の方(家族等)のみの相談の場合もある。



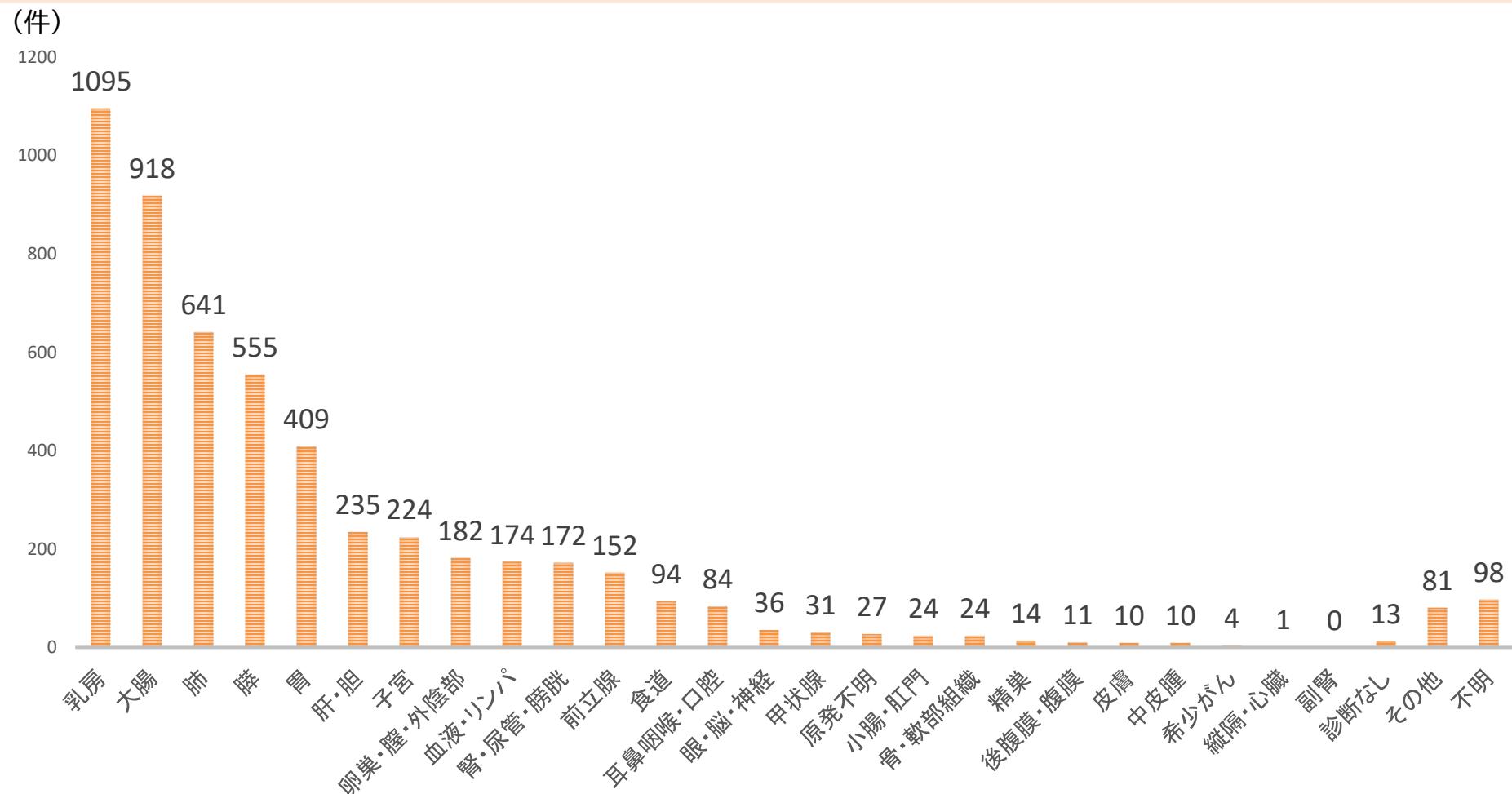
相談方法 10拠点病院R5年度実績

- 主に対面、電話での相談対応を行っている。



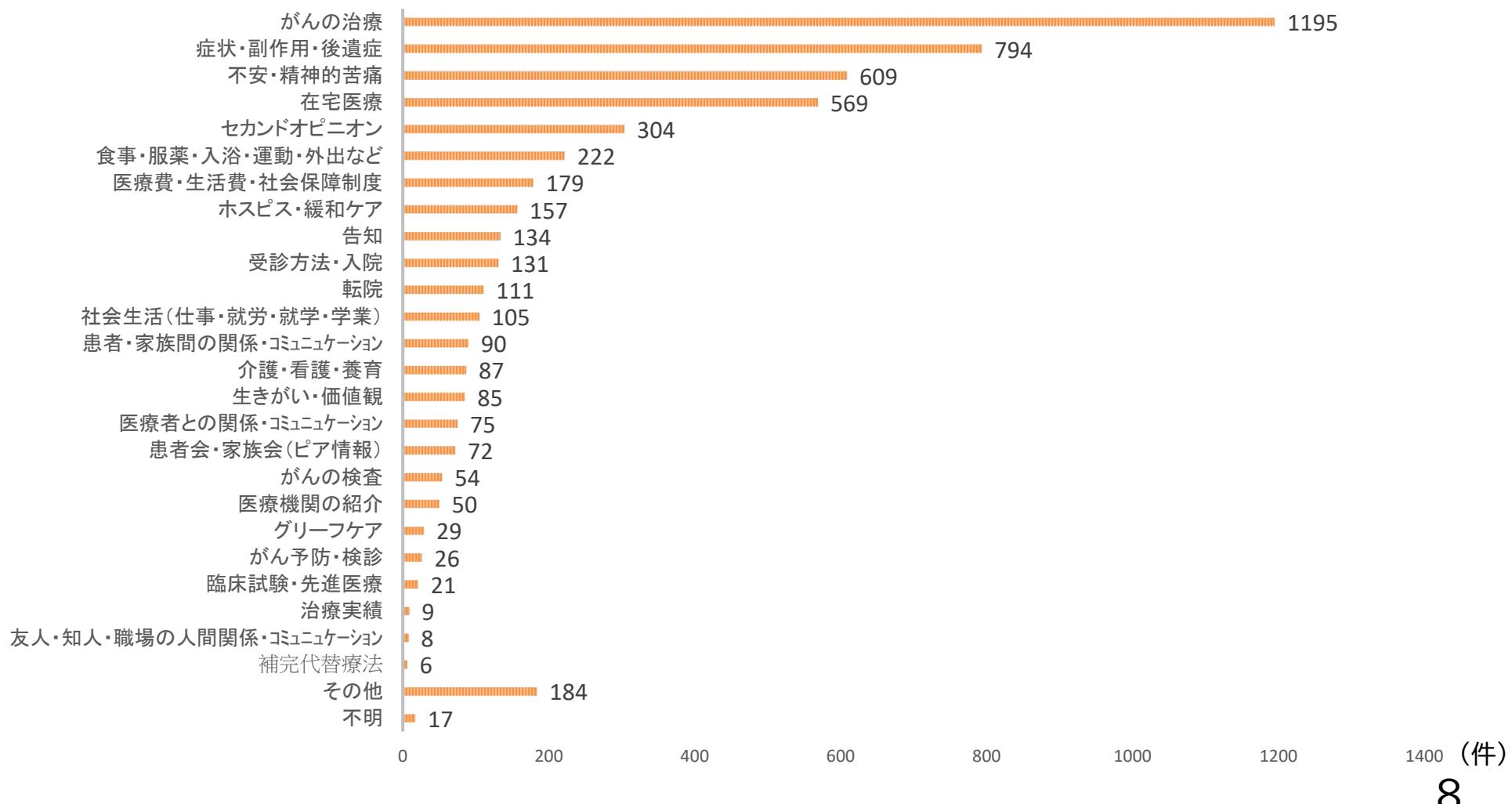
がん種別相談件数 10拠点病院R5年度実績

- 罹患者数の多いがん種での相談件数が多い。
- 5大がん以外では、膵臓がん、肝・胆がんの相談件数が多い。



相談内容 10拠点病院R5年度実績

- ・「がんの治療」「症状・副作用・後遺症」「精神的苦痛」についての相談が多い。
- ・「在宅医療」についての相談も多く、退院後の生活への支援の重要性が読み取れる。
- ・「医療費・生活費・社会保障制度」の相談も多く、金銭面の不安を抱える患者が多いことが分かる。



最近の相談内容の傾向(10拠点病院への聞き取り結果)

【治療について】

- ・ 治療方針、化学療法の副作用に関する相談が増加傾向。
→広報活動や医療者間の連携が進み、治療の初期段階での相談が増加している。

【金銭面での不安】

- ・ 医療費・生活費・社会保障制度の相談が増加傾向、医療ソーシャルワーカーと連携するケースも多い。
- ・ 高齢者からは、特に年金生活者の方から、入院に関わる費用についての相談が多い。

【治療と仕事の両立】

- ・ 特に若年者からは、治療と仕事の両立の面で、職場への伝え方や傷病者手当に関する相談が多い。

【在宅療養】

- ・ 介護サービスを利用して在宅で治療する患者が増えており、在宅療養についての相談が増加傾向。

【患者家族からの相談】

- ・ 県外に住む家族からの相談が増加傾向にある。(頻回に来県できないため状況が把握できない、どう対応してよいか、誰に相談してよいか分からぬ等)

相談対応の工夫点(10拠点病院への聞き取り結果)

【患者への周知】

- ・ 入院予約の患者全員にがん相談員が対面し、パンフレットを利用して紹介し、その場からがん相談につなげている。
- ・ 実際にセンターに来る患者への対応だけでなく、外来や病棟スタッフと情報を共有し、入院患者や受診患者にこちらから声掛けし相談につなげている。
- ・ まだまだがん相談支援センターの存在を知らない方が多いと実感しており、必要なときに利用してもらえるよう図書館展示や市民向けの研修での広報活動を継続している。
- ・ 月1回実施のミニ講座のテーマを相談内容の傾向により毎年更新。
- ・ 外来での診療案内モニター、待合への案内設置等による広報。

【多職種連携】

- ・ 相談内容に応じた速やかな多職種連携。(病棟・外来の医師・看護師、医療ソーシャルワーカー、訪問介護、ケアマネージャー等)
- ・ 患者に関する介護スタッフとも情報共有を図り、在宅での生活支援を行っている。